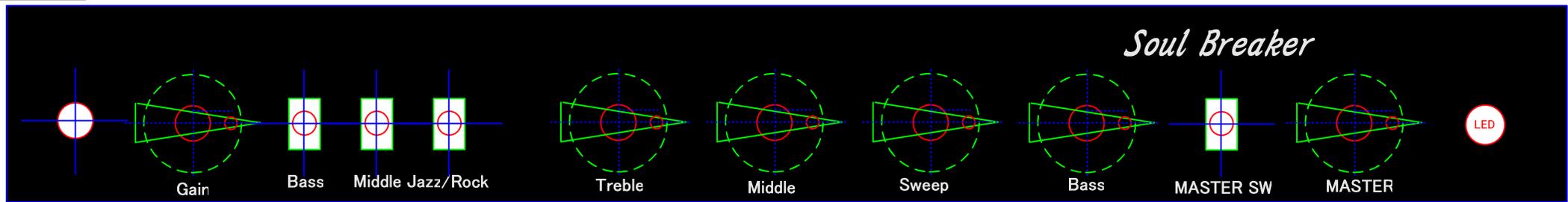


Front Panel



フロントパネルの説明

■一番左(Guitar INPUT):ギターをシールドで接続してください。ギターを交換するときなどは、ジャックを半差し状態にするか、ボリュームを絞ってください。

■Gain, Treble、Middle、Sweep、Bass, Masterボリュームについて

説明の必要は無いと思いますが、このアンプ特有のSweepについて説明します。このボリュームは中域の周波数を可変するボリュームです。

ギターアンプは中域を削っています。Middleのボリュームでこの削っている量を調整して、Sweepでその周波数を調整するという使い方です。

Middleを一番左側に(絞った状態)でSweepの効果が最もよくわかります。

このアンプはこのように中域のコントロールが自在にできるアンプになっています。

Middleを絞る(左側)とFenderライクな鈴鳴りのトーンになりますし、開放する(右側)と中低域がドンと出てきて、存在感のある音色が楽しめます。

なお、Master SWが効いているときには、この調整は効かなくなっています。

■LED:クリーンモードでは緑色、ドライブモードでは赤色に発色します。モードを確認するときに、チラッとアンプを見てやってください。

ミニスイッチの説明

■Bass SW:これはGainのボリュームが小さいときに低域を削ることによって高域を強調し、きらびやかな音を作るスイッチです。FenderアンプについているBright SWと同じ働きをしますが、Fenderアンプほど大きく音を変えないような定数を選んでいます。

■Middle SW:このスイッチはどのモードでも効き、中域を強調するスイッチです。音が太くなる感じを試してみてください。

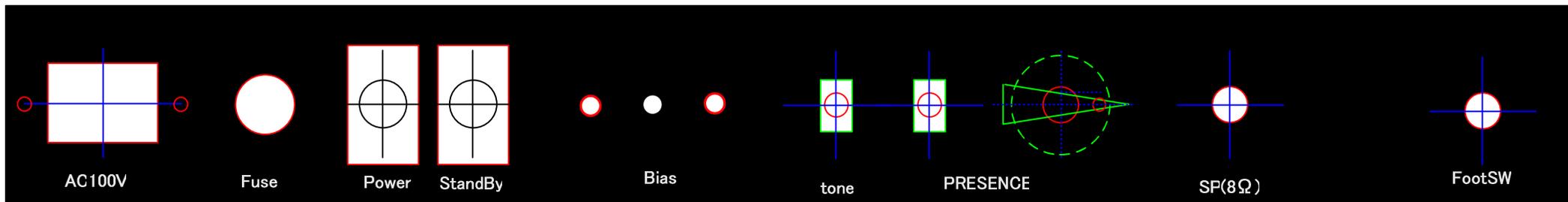
■Jazz/Rock SW:このスイッチは上側でJazzモード、下側でRockモードとなります。Jazzモードの時は音があっさりした感じで、よりクリーンです。Rockモードにすると音に粘りが足されます。音量も若干Rockモードの方が大きくなります。

■Master SW:名前がちよっと変ですが・・・これはBoost SWになります。プリアンプの出力が大きくなり、トーン回路の大部分がバイパスされます。そのため、このモードにしたときはトーンは、ほとんど効きません。

クリーンモードでBoost SWをいれたときの音はこのアンプならではの音だと思います。ハムバッカーのギターには良く合います。

また、ドライブモードでBoost SWをいれておくと、さらに歪みは深くなりますが、小さな音量では、プリ管で歪みが作り出されています。

Rear Panel



リアパネルの説明

■AC100V: このアンプは日本製ですので、必ず100Vでご使用ください。できるだけ3ピンのコンセントで使用されることをお勧めします。100V以外で使用されて壊れても責任は取れません。

■Fuse: 250V、3A程度のFuseをご使用ください。

■Power SW、StandBy SW: どの真空管アンプでもそうですが、使用するときはPower SWをいれてしばらく(30秒程度)してStandBy SWをいれてください。

また、切る時はその逆にStandBy SWを切ってからPower SWをきるようにしてください。

演奏をちょっと休んでいるときにはStandBy SWをきっておくだけで良いです。そうすればStandBy SWのみですぐに使用できる状態になります。

また、アンプの手入れとして、定期的にはスイッチを入れるようにしてください。(できれば毎日)これは、内部のコンデンサに電荷を常にチャージしておく為で、こうしておくとコンデンサは長持ちしますし、各パーツがなじんできて、音も良くなってきます。

■Bias調整用のサービス端子です。真ん中はGND端子で左側が左側のパワー管のカソード電流測定用の抵抗、右側が右側のパワー管のカソード電流測定用の抵抗に接続されています。各管のバランスは赤同士で測定可能です。

■Tone SW: Foot SWが接続されていない状態でドライブモードとクリーンモードの切り替えが可能です。Foot SWを接続されると、Foot SWが優先される仕様になっていますので、このSWは効かなくなります。

また、ドライブモードではフロントパネルのインジケーターが赤に、クリーンモードでは緑になります。

■Presence: スイッチでOFFができます。音が大きくなる方がOFFです。OFFの場合はPresenceは効きません。Presenceは負帰還という技術で実現されており、これによって周波数特性やノイズに強くなります。

しかし、一方でギターアンプに使用した場合、私は音の反応が悪くなると感じています。OFFにして使用してみてください。きっとギターの反応が良くなったと感じると思います。また、OFFでは音量が少しあがりますが、ノイズも少し増えます。

高域が欲しいときはONにしてPRESENCEで右側に回してゆくと高域が強調され、低域の制動が良くなる為、ボンツキは小さくなります。

■SP(8Ω): 8Ωで60W以上のスピーカーを接続してください。

■FootSW: 付属のFootSWとアンプをギター用のシールドで接続します。

上記のTONEでも説明しましたが、Foot SWが接続されると、Tone SWは効かなくなります。

また、ドライブモードではGainを上げると歪みが深くなりますが、MasterSW(ブーストモード)、Middleスイッチを入れ、Rockモードにして、PresenceをOFFにしてゆくとどんどん歪みは深くなってゆきます。

また、実はシャーシの裏側にドライブモードの歪み調整用にポッドの頭が出ていますので、この調整でも歪みをコントロールすることは可能です。ただ、歪みを深くした場合プリ管での歪みの割合が多くなると、音の線が細くなってしまい、耳障りな歪みになります。

しかし、出荷時にこのポッドは私が音量だけではなく、音の太さなどを考えて調整していますので、できるだけシャーシのポッドの調整はそのままでご使用されることをお勧めします。

Soul Breakerの基本構成

Soul Breakerはプリ管に12AX7を3本使用しています。

リアパネル側から見て右側から、

1本目:入力アンプとトーン回路後のアンプに使用しています。

2本目:ドライブモード用の管です。

3本目:フェーズインバーター用の管です。

大きめな2本がパワー管です。パワー管には最初は6L6がチョイスされています。

もう少しクリーンな感じが欲しければ5881も使用可能です。

パワー管の駆動方式はAB1級アンプになっており、実測で55Wのアンプになっています。

Block図

